

国土交通省総合政策局  
情報政策課交通統計室  
平成24年12月3日(月)公表

# トラック輸送情報

平成24年9月分

平成24年10月分は1月上旬公表予定

\* 問い合わせ先

国土交通省総合政策局情報政策課交通統計室  
電話 03-5253-8111 FAX 03-5253-1567  
担当 中倉 (課長補佐) 28-721

この調査報告の概要は、国土交通省ホームページでもご覧いただけます。  
<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

## トラック輸送情報（平成24年9月分）

平成24年12月3日

総合政策局 情報政策課 交通統計室

担当：中倉 内線28721

直通：03-5253-8347

<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

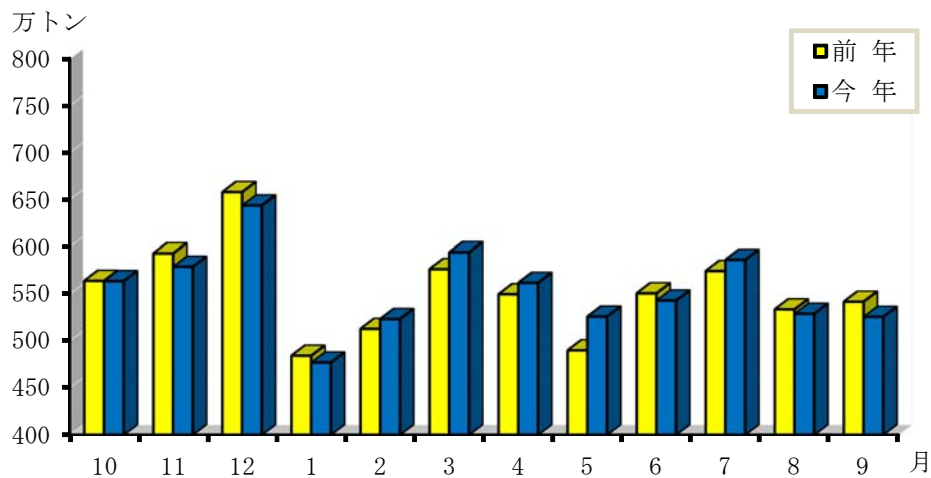
### 1. 特別積合せ貨物

#### (1) 本月の概況

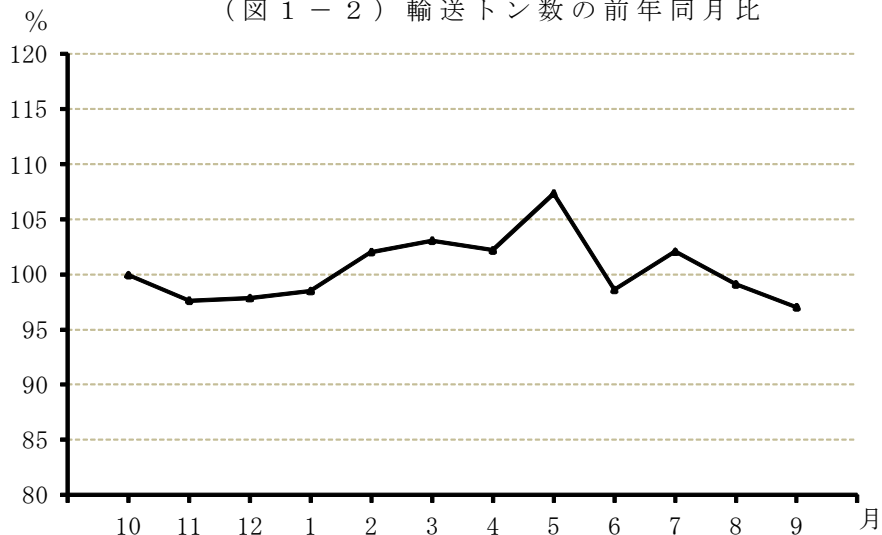
調査対象25社の本月の輸送量は、5,259,765トンで、前月と比べ総輸送量が約32千トン減少したため、前月比99.4%（季節調整済み100.0%）となり、前年同月との比較では、約161千トン減少したため、前年同月比97.0%の実績であった。（図1-1、図1-2参照）

なお、平均稼働日数は21.7日で、前月と比べ0.8日減少し、前年同月との比較では、1.9日減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、242,385トンで、前月と比べ約7千トン増加したため、前月比103.1%となり、前年同月との比較では、約11千トン増加したため、前年同月比104.6%の実績であった。

（図1-1）輸送トン数の推移



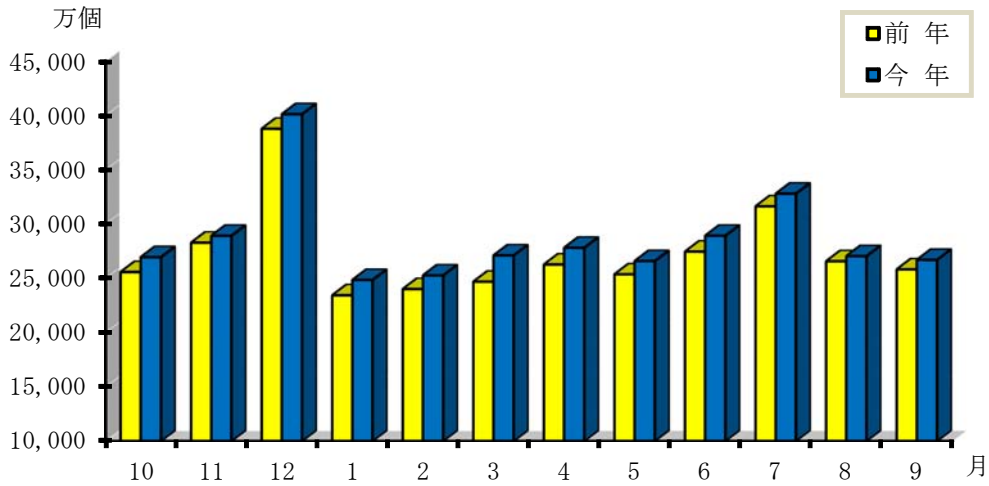
（図1-2）輸送トン数の前年同月比



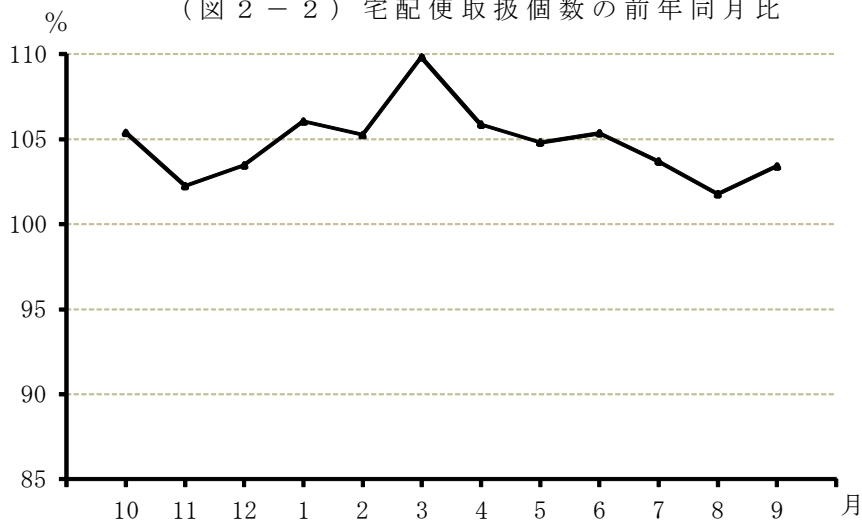
(2) 宅配便の概況

調査対象 17 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、267,143 千個で、前月と比べ 約 3,411 千個減少したため、前月比 98.7% (季節調整済み 101.3%) となり、前年同月との比較では、約 8,788 千個増加したため、前年同月比 103.4% の実績であった。(図 2-1、図 2-2 参照)

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 調査対象 26 社(25 社及び品目別・地域別輸送状況回答 1 社)の品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、「機械」、「化学工業品」、「繊維工業品」で、輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。増加要因としては、工場・生産地からの貨物増が「機械」、「繊維工業品」で見られた。「繊維工業品」の主な増加地域は神奈川、中部であった。

前年同月と比べると、工場・生産地からの貨物減が「農水産品」、「金属製品」、「機械」、「食料工業品」で、デパート・スーパーからの貨物減が「その他 (百貨店配送品)」で見られた。「金属製品」の主な減少地域は、東京、関東、北陸信越、中部地方、近畿で、「食料工業品」の主な減少地域は、関東地方、北陸信越、近畿であった。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 26社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因
	著 増	増	変 ら ず	著 減			
前 月 に 比 べ て	農水産品	1	1	14	2		
	金属製品	1	3	14	3		
	機 械	1	4	13	2		4
	化学工業品		5	16	1		
	繊維工業品	1	5	16		神奈川、中部	4
	食料工業品		2	15	3		
	日 用 品		5	14	3		
	そ の 他	1	3	13	2	3	
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品	1	1	10	6		4
	金属製品		1	12	8	東京、関東、北陸信越、中部地方、近畿	4
	機 械		1	13	6	近畿	4
	化学工業品		2	14	6		
	繊維工業品		1	18	3		
	食料工業品		3	9	8	製造食品 関東地方、北陸信越、近畿	4
	日 用 品		4	13	5	関東	
	そ の 他		3	8	7	4 宅配便、その他(百貨店配送品) 全国	2

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。  
なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

## 2. 一般貨物

### (1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者(本月の回答事業者792社/調査対象事業者数1,067社)の輸送量は、前月比 103.0%、前年同月比 99.8%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	99.8 %	102.0 %	106.1 %	95.8 %	101.4 %	97.1 %	97.3 %	98.6 %	97.1 %	96.7 %	90.7 %	
前 月 比	103.0 %	107.2 %	100.9 %	101.4 %	105.9 %	100.8 %	100.6 %	106.6 %	99.0 %	99.5 %	91.2 %	

### (2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況 (各運輸局より回答のあったもの)

北海道	<p>本月の輸送については、対前月比107.2%、対前年同月比102.0%であった。品目別では、季節的需要増等により「穀物」、「野菜・果物」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。また、建設関連の需要増等により「砂利・砂・石材」、「金属製品」、「セメント」が、工場・生産地からの貨物増等により「動植物性飼・肥料」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、建設関連の需要減等により「砂利・砂・石材」が、工場・生産地からの貨物減等により「紙・パルプ」、「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送については、対前月比100.9%、対前年同月比106.1%であった。品目別では、季節的需要増等により「野菜・果物」、「砂利・砂・石材」が、建設関連の需要増等により「鉄鋼」、「金属製品」、「セメント」、「その他窯業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減等により「工業用非金属鉱物」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送については、対前月比101.4%、対前年同月比95.8%であった。品目別では、建設関連の需要増により「鉄鋼」が、季節的需要増により「動植物性飼・肥料」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「野菜・果物」が、景気の影響により「紙・パルプ」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送については、対前月比105.9%、対前年同月比101.4%であった。品目別では、季節的需要増等により「穀物」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。また、建設関連の需要増等により「木材」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、輸出入の貨物減等により「機械」が、工場・生産地からの需要減等により「化学肥料」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送の見通しについては、次月は増加傾向、以降についてはほぼ横ばいが予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送については、対前月比100.8%、対前年同月比97.1%であった。品目別では、季節的需要増により「その他の農産品」が、商社・問屋からの貨物増等により「紙・パルプ」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減等により「砂利・砂・石材」、景気の影響により「その他の窯業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。次月及び以降ともほぼ横ばいが予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送については、対前月比100.6%、対前年同月比97.3%であった。品目別では、季節的需要増により「水産品」が、工場・生産地からの需要増により「化学肥料」、「その他の化学工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「廃棄物」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送については、対前月比106.6%、対前年同月比98.6%であった。品目別では、季節的需要増等により「穀物」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。また、建設関連の需要増等により「砂利・砂・石材」、「鉄鋼」、「金属製品」、「機械」、「セメント」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減等により「食料工業品」、「廃棄物」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の見通しについては、次月は増加傾向、以降についてはほぼ横ばいが予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送については、対前月比99.0%、対前年同月比97.1%であった。品目別では、季節的需要増等により「化学肥料」が、建設関連の需要増等により「機械」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減等により「穀物」、「その他の農産品」、「揮発油」、「食糧工業品」が、工場・生産地からの貨物減等により「工業用非金属鉱物」、「非鉄金属」、「機械」、「その他の窯業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送については、対前月比99.5%、対前年同月比96.7%であった。品目別では、季節的需要増等により「野菜・果物」が、工場・生産地からの貨物増等により「機械」が、景気の影響等により「木材」が、建設関連の需要増等により「金属製品」、「セメント」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。一方、季節的需要減等により「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送については、対前月比91.2%、対前年同月比90.7%であった。品目別では、季節的需要増により「その他の農産品」が、建設関連の需要増により「鉄鋼」が、工場・生産地からの需要増により「セメント」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、天候(台風)により「野菜・果物」、「水産品」、「木材」が、建設関連の需要減により「その他の製造工業品」が、商社・問屋からの貨物減等により「紙・パルプ」が、倉庫への入出庫減により「日用品」が、季節的需要減により「その他の化学工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送の見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降については増加傾向が予想される。</p>

## (3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
1. 穀物	増	5	2		5			4	1			17
	減	2	1						2	1		6
2. 野菜・果物	増	8	4					2	1	5		20
	減		2	1				2		4	1	10
3. その他の農産品	増					1		1			1	3
	減								3			3
4. 畜産品	増							1	1	2		4
	減							1				1
5. 水産品	増					1	1	1		2		5
	減	1			1			1			1	4
6. 木材	増	1	1		2			1		5		10
	減	1	1						1		1	4
7. 薪炭	増											
	減											
8. 石炭	増	1										1
	減	1						1				2
9. 金属鉱物	増					1		1				2
	減					1						1
10. 砂利・砂・石材	増	11	2		1			7		2		23
	減	4				2		3	1	1		11
11. 工業用非金属鉱物	増											
	減		2						3	1		6
12. 鉄鋼	増		2	1	1			2	1	1	1	9
	減				1				2	1		4
13. 非鉄金属	増			2	1			1				4
	減						1		2	3		6
14. 金属製品	増	2	3				1	4	1	4		15
	減		1	1	1		2		1	3		9
15. 機械	増	1			1	2	2	5	3	5	1	20
	減		1	1	3	2	1		4		1	13
16. セメント	増	2	2			1		3		4	1	13
	減					2		1		2		5
17. その他の窯業品	増	2	2		1			2		1		8
	減	1				1		1	3			6

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
18.揮 発 油	増				1							1
	減				1				2			3
19.その他の石油製品	増	2			1				1			4
	減	2	1					1				4
20.コークス・ その他の石炭製品	増											
	減				1							1
21.化 学 薬 品	増									1		1
	減							1	1			2
22.化 学 肥 料	増	1					1	2	2			6
	減				2							2
23.その他の化学工業品	増						1	1		2		4
	減		1					1	1		1	4
24.紙 ・ パ ル プ	増		1			1		1	2	1		6
	減	2		1			1	1			1	6
25.織 維 工 業 品	増				1							1
	減								1			1
26.食 料 工 業 品	増		3	1		1	2	2	1	3		13
	減	2	2	1	1		3	6	3	11		29
27.日 用 品	増	2					2		1	1		6
	減	1	1		1		1		1	1	1	7
28.その他の製造工業品	増		1			1	1	1		1		5
	減		1			1					1	3
29.金 属 く ず	増										1	1
	減											
30.その他のくずもの	増							1		1		2
	減											
31.動植物性飼・肥料	増	4		1						3		8
	減	1	1							1		3
32.廃 棄 物	増											
	減	1	1				1	3		1		7
33.輸 送 用 容 器	増							1		1		2
	減				1			1	1			3
34.取 り 合 せ 品	増		1		1			3	1	2		8
	減							1				1
35.そ の 他	増			1	1		2		1	5		10
	減	1			3		3	1	1	6		15